

クラス番号	332	担当教員名	伊藤 美智予
テーマ	現代社会における高齢者ケアについて考える		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者の『通いの場』づくりの取り組みとその効果」『地域保健』51(6),58-64(2020) 「認知症ケア推進における実践と研究の協働」『日本認知症ケア学会誌』16(3),608-616(2017) 「要介護認定データから作成したケアの質評価指標の妥当性の検証—ブラインドスタディによる特別養護老人ホームへの訪問調査を通して」『社会福祉学』57(1),58-70(2016) 「認知症の人が活用しているインフォーマルサポートの種類と機能—認知症ケアマネジメントへの示唆」『日本認知症ケア学会誌』12(4),731-741(2014) 「ケアの質評価の到達点と課題」『季刊社会保障研究』48(2),120-132(2012) 「アメリカのナーシングホームにおけるケアの質マネジメントシステムの現状と評価—マネジャーらへのヒアリング調査をもとに」『社会福祉学』48(1),153-166(2007) 		

ゼミナール概要

キーワード：認知症ケア、ケアマネジメント、家族支援、プログラム開発と評価、震災時支援

目的、内容、方法等：

私は大学時代の老人病院でのアルバイト経験から、高齢者ケアに関心をもつようになりました。大学卒業後、特別養護老人ホームに勤務した経験もあります。現在では、高齢者・家族のQOL向上のため、次の3つのレベルからその方策について検討しています。①ミクロレベル（人づくり）：ケアする側（家族・専門職）をどうケアするか、②メゾレベル（組織づくり）：ケアの質向上を志向する事業所をどうつくるか、③マクロレベル（地域づくり）：特に認知症の人や家族を地域でどう支えるか、災害時に地域でどう支えあうか。

本ゼミでは、キーワードにあるようなテーマを取り上げながら、①現代社会における高齢者ケアの現状と課題を正しく理解し、②今後、高齢者ケアをよくするために何ができるか考えることを目的とします。専門的知識の習得はもちろん、学生によるゼミ企画（合宿やフィールドワーク等）の立案&実施、レポート添削&講評、各種プレゼンテーションの実施など全体的なゼミ活動を通して、社会に出てからも役立つ「考える力」「伝える力」「書く力」「要約する力」「周りとの協力しあいながら課題解決を図る力」「企画する力」の向上も目指します。

具体的なゼミ内容や方法、スケジュールの詳細については、皆さんと相談しながら決めていきます。

授業計画：

- 3年次前半：卒業論文執筆のための基本的スキルを身につけること、高齢者ケアをとりまく現状と課題について理解することを中心に展開します。担当者（個人またはグループ）を決め、報告してもらいます。文献の読み方やまとめ方、プレゼンテーションの仕方などを学びます。
- 3年次後半：各自の問題意識を明確化し、卒業論文の具体的な課題を設定します。文献学習を深めるとともに、ゼミ生の興味関心に応じて、福祉・医療の実践の場でのフィールドワークやグループ学習を積極的に取り入れます。
- 4年次：個々の関心に基づき卒業論文の執筆を進め、秋には完成させます。その後は社会福祉士国家試験に向けた学習をします。

担当教員からのメッセージ

学生時代は人生において大変貴重な時間です。ゼミとしても、人とのつながりを大切にしながら、自身の見聞を広め、感性を磨くことができるような場づくりや学習機会の提供を行っていきたくと思います。

「たくましく」成長しあえるゼミにしていければと考えています。新しいことにどんどんチャレンジし、何事においても積極的に学ぼうとする姿勢をもつ学生を歓迎します。

エントリーシートには、①このゼミを選んだ理由、②現段階での希望進路とその理由の2点について記載してください。